

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成29年7月27日(2017.7.27)

【公開番号】特開2016-41170(P2016-41170A)

【公開日】平成28年3月31日(2016.3.31)

【年通号数】公開・登録公報2016-019

【出願番号】特願2014-166122(P2014-166122)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】平成29年6月13日(2017.6.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技動作を統括的に制御する主制御手段と、

演出デバイスの動作を制御する演出制御手段と、

遊技者が操作可能な操作手段と、

前記演出デバイスとして、

振動可能な振動手段と、

原点位置と演出位置とを移動可能な第 1 可動物及び第 2 可動物と、

を備え、

前記演出制御手段は、操作有効期間内に前記操作手段が操作されることに応じて、少なくとも前記第 1 可動物及び前記第 2 可動物の駆動を実行するとともに、前記振動手段による振動演出を実行可能であり、

前記振動演出は、少なくとも前記第 1 可動物及び前記第 2 可動物が前記原点位置から演出位置へと移動する第 1 期間と、

該演出位置へと達した後の第 2 期間において実行可能であることを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

本発明に係る遊技機は、遊技動作を統括的に制御する主制御手段と、演出デバイスの動作を制御する演出制御手段と、遊技者が操作可能な操作手段と、前記演出デバイスとして、振動可能な振動手段と、原点位置と演出位置とを移動可能な第 1 可動物及び第 2 可動物と、を備え、前記演出制御手段は、操作有効期間内に前記操作手段が操作されることに応じて、少なくとも前記第 1 可動物及び前記第 2 可動物の駆動を実行するとともに、前記振動手段による振動演出を実行可能であり、前記振動演出は、少なくとも前記第 1 可動物及び前記第 2 可動物が前記原点位置から演出位置へと移動する第 1 期間と、該演出位置へと達した後の第 2 期間において実行可能である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

遊技機は、遊技動作を統括的に制御すると共に、遊技動作に関連する制御コマンドを出力する主制御手段と、遊技者が操作可能な操作手段と、前記主制御手段からのコマンドに応じて演出デバイスの動作を制御する演出制御手段と、前記演出デバイスの一つであり、前記操作手段を振動させる振動手段とを備える。そして前記演出制御手段は、所定の演出を操作有効期間内に前記操作手段が操作されることに応じて実行させる際に、前記振動手段による前記操作手段の振動期間長が異なる振動を選択的に実行させることが考えられる。

このような遊技機では、遊技者の操作手段の操作に応じた演出の際に、振動期間長が異なる振動演出が実現される。これにより演出効果を多様化して遊技性を高めることができる。特に、操作の際の振動演出であり、遊技者が操作手段に触れている場合の振動演出であるため、振動期間長による多様な演出効果を遊技者に効果的に与えることができる。

また遊技機においては、前記演出制御手段による前記振動手段を用いた演出として、振動によって当選予告の信頼度を表現する第1種振動演出と、振動によって所定の確定事項の報知を行う第2種振動演出とがあり、前記演出制御手段は、前記所定の演出の当選予告の信頼度を表現する前記第1種振動演出として、振動期間長が異なる振動を選択的に実行させることが考えられる。

操作手段の振動として、信頼度表現の振動と、報知機能の振動を使い分けることを考える。この場合、信頼度表現の振動として短期間振動と長期間振動を使い分けることで、操作手段に触れている遊技者への信頼度の提示を明確に行うことができる。

また遊技機においては、前記演出制御手段は、当選予告の信頼度が高いことを表現する振動演出として長期間振動を実行させ、当選予告の信頼度が低いことを表現する振動演出として短期間振動を実行させることが考えられる。

これにより遊技者が信頼度の高低が感覚的にわかりやすい振動演出とすることができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

センター飾り35Cの下方には、上始動口41（第1の特別図柄始動口）を有する入賞装置が設けられ、さらにその下方には下始動口42a（第2の特別図柄始動口）を備える普通変動入賞装置42が設けられている。

上始動口41及び下始動口42aの内部には、遊技球の通過を検出する検出センサ（図3に示す上始動口センサ91，下始動口センサ92）が形成されている。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

また普通変動入賞装置42の左右には、一般入賞口43が複数個設けられている。各一般入賞口42の内部には、遊技球の通過を検出する検出センサ（図3に示す一般入賞口センサ94）が形成されている。

また右遊技領域 3 c の下部側には、遊技球が通過可能なゲート（特定通過領域）からなる普通図柄始動口 4 4 が設けられている。この普通図柄始動口 4 4 は、図柄表示部 3 3 における普通図柄の変動表示動作に係る入賞口であり、その内部には、通過する遊技球を検出するセンサ（図 3 に示すゲートセンサ 9 3）が形成されている。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

右遊技領域 3 c 内の普通図柄始動口 4 4 から普通変動入賞装置 4 2 へかけての流下経路途中には第 1 特別変動入賞装置 4 5（特別電動役物）が設けられている。

第 1 特別変動入賞装置 4 5 は、突没式の開放扉 4 5 b により第 1 大入賞口 4 5 a を閉鎖 / 開放する構造とされている。また、その内部には第 1 大入賞口 4 5 a への遊技球の通過を検出するセンサ（図 3 の第 1 大入賞口センサ 9 5）が形成されている。

第 1 大入賞口 4 5 a の周囲は、右下飾り 3 5 R が遊技盤 3 の表面から膨出した状態となっており、その膨出部分の上辺及び開放扉 4 5 b の上面が右流下経路 3 c の下流案内内部を形成している。従って、開放扉 4 5 b が盤内部側に引き込まれることで、下流案内内部に達した遊技球は容易に第 1 大入賞口 4 5 に入る状態となる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 6】

また普通変動入賞装置 4 2 の下方には、第 2 特別変動入賞装置 4 6（特別電動役物）が設けられている。第 2 特別変動入賞装置 4 6 は、下部が軸支されて開閉可能な開放扉 4 6 b により、その内側の第 2 大入賞口 4 6 a を閉鎖 / 開放する構造とされている。また、その内部には第 2 大入賞口 4 6 a への遊技球の通過を検出するセンサ（図 3 の第 2 大入賞口センサ 9 6）が形成されている。

開放扉 4 6 b が開かれることで第 2 大入賞口 4 6 a が開放される。この状態では、左遊技領域 3 b 或いは右遊技領域 3 c を流下してきた遊技球は、高い確率で第 2 大入賞口 5 0 に入ることとなる。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

主制御部 5 0 は、上述のように盤面の遊技領域の各入賞手段（上始動口 4 1、下始動口 4 2 a、普通図柄始動口 4 4、第 1 大入賞口 4 5 a、第 2 大入賞口 4 6 a、一般入賞口 4 3）に設けられるセンサの検出信号を受信する構成となっている。

即ち、上始動口センサ 9 1、下始動口センサ 9 2、ゲートセンサ 9 3、一般入賞口センサ 9 4、第 1 大入賞口センサ 9 5、第 2 大入賞口センサ 9 6 のそれぞれの検出信号が主制御部 5 0 に供給される。

なお、これらのセンサ（9 1 ~ 9 6）は、入球した遊技球を検出する検出スイッチにより構成されるが、具体的にはフォトスイッチや近接スイッチなどの無接点スイッチや、マイクロスイッチなどの有接点スイッチで構成することができる。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 3 4 】

主制御部 5 0 は、上始動口センサ 9 1、下始動口センサ 9 2、ゲートセンサ 9 3、一般入賞口センサ 9 4、第 1 大入賞口センサ 9 5、第 2 大入賞口センサ 9 6 のそれぞれの検出信号の受信に応じて、処理を行う。例えば抽選処理、図柄変動制御、賞球払出制御、演出制御コマンド送信制御、外部データ送信処理などを行う。

【手続補正 1 0】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 6 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 6 9 】

ステップ S 5 3 では、主制御 CPU 1 0 0 は入力管理処理を行う。この入力管理処理では、パチンコ遊技機 1 に設けられた各種センサによる検出情報を入賞カウンタに格納する。ここでの各種センサによる検出情報とは、たとえば、上始動口センサ 9 1、下始動口センサ 9 2、ゲートセンサ（普通図柄始動口センサ） 9 3、第 1 大入賞口センサ 9 5、第 2 大入賞口センサ 9 6、一般入賞口センサ 9 4 などの入賞検出スイッチから出力されるスイッチ信号の ON / OFF 情報（入賞検出情報）である。

このステップ S 5 3 の処理により、各入賞口において入賞を検出（入賞が発生）したか否かが割込みごとに監視される。また上記「入賞カウンタ」とは、各々の入賞口ごとに対応して設けられ、入賞した遊技球数（入賞球数）を計数するカウンタである。本実施の形態では、主制御 RAM 1 0 2 の所定領域に、上始動口 4 1 用の上始動口入賞カウンタ、下始動口 4 2 a 用の下始動口入賞カウンタ、ゲート 4 4 用の普通図柄始動口入賞カウンタ、第 1 大入賞口 4 5 a 用の第 1 大入賞口入賞カウンタ、第 2 大入賞口 4 6 a 用の第 2 大入賞口入賞カウンタ、一般入賞口 4 3 用の一般入賞口用の入賞カウンタなどが設けられている。

またこの入力管理処理では、入賞検出スイッチからの検出情報が入賞を許容すべき期間中に入賞したか否かに基づいて、不正入賞があったか否かも監視される。たとえば大当り遊技中でないにもかかわらず第 1、第 2 大入賞口センサ 9 5、9 6 が遊技球を検出したような場合は、これを不正入賞とみなして入賞検出情報を無効化し、その無効化した旨を外部に報知するべく後述のステップ S 5 5 のエラー管理処理において所定のエラー処理が行われるようになっている。

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 1 6 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 6 5 】

また操作有効期間の開始と同時に振動演出を実行させることに加えて長期間振動 V B L、短期間振動 V B S を用いる例として動作例 E X 7 - 2 も想定される。

図 1 8 に示す動作例 E X 7 - 2 では、操作有効期間（時点 $t_b \sim t_c$ ）において、演出ボタン 1 1 の操作に応じて振動演出を開始させる場合を振動 V B 3 2 として示し、また操作有効期間が開始される時点 t_b に振動演出を開始させる場合を振動 V B 3 3 として示している。この場合、振動 V B 3 2、V B 3 3 とともに、例えば時点 t_d に終了させる。

すると、振動 V B 3 2 は短期間振動 V B S、振動 V B 3 3 は長期間振動 V B L となる。

従って振動 V B 3 2、V B 3 3 を選択的に実行することで、ボタン予告演出の信頼度を表現すること、即ち信頼度が高い場合は振動 V B 3 3、信頼度が低い場合は振動 V B 3 2 というような振動演出が可能となる。

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 6 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 6 9】

そして図示の例では、振動 V B 3 4 , V B 3 5 とともに、例えば時点 t d に終了させる。

すると、振動 V B 3 4 は短期間振動 V B S、振動 V B 3 5 は長期間振動 V B Lとなる。

従って振動 V B 3 4 , V B 3 5 を選択的に実行することで、ボタン予告演出の信頼度を表現すること、即ち信頼度が高い場合は振動 V B 3 5、信頼度が低い場合は振動 V B 3 4 というような振動演出が可能となる。

このため動作例 E X 8 は、動作モデル M D 2 の具体例としても適用できる。

【手続補正 1 3】

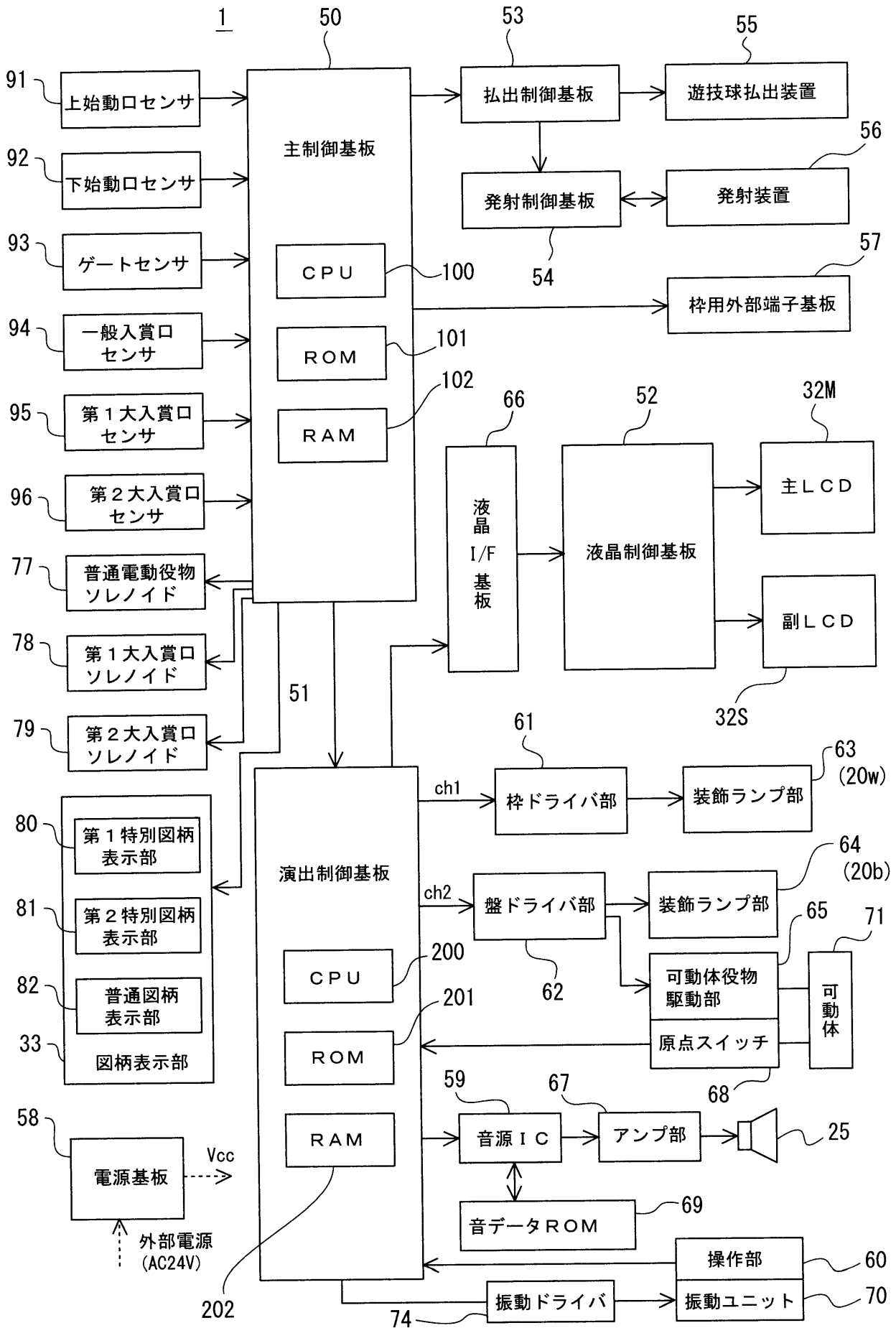
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 3】



【手続補正 1 4】

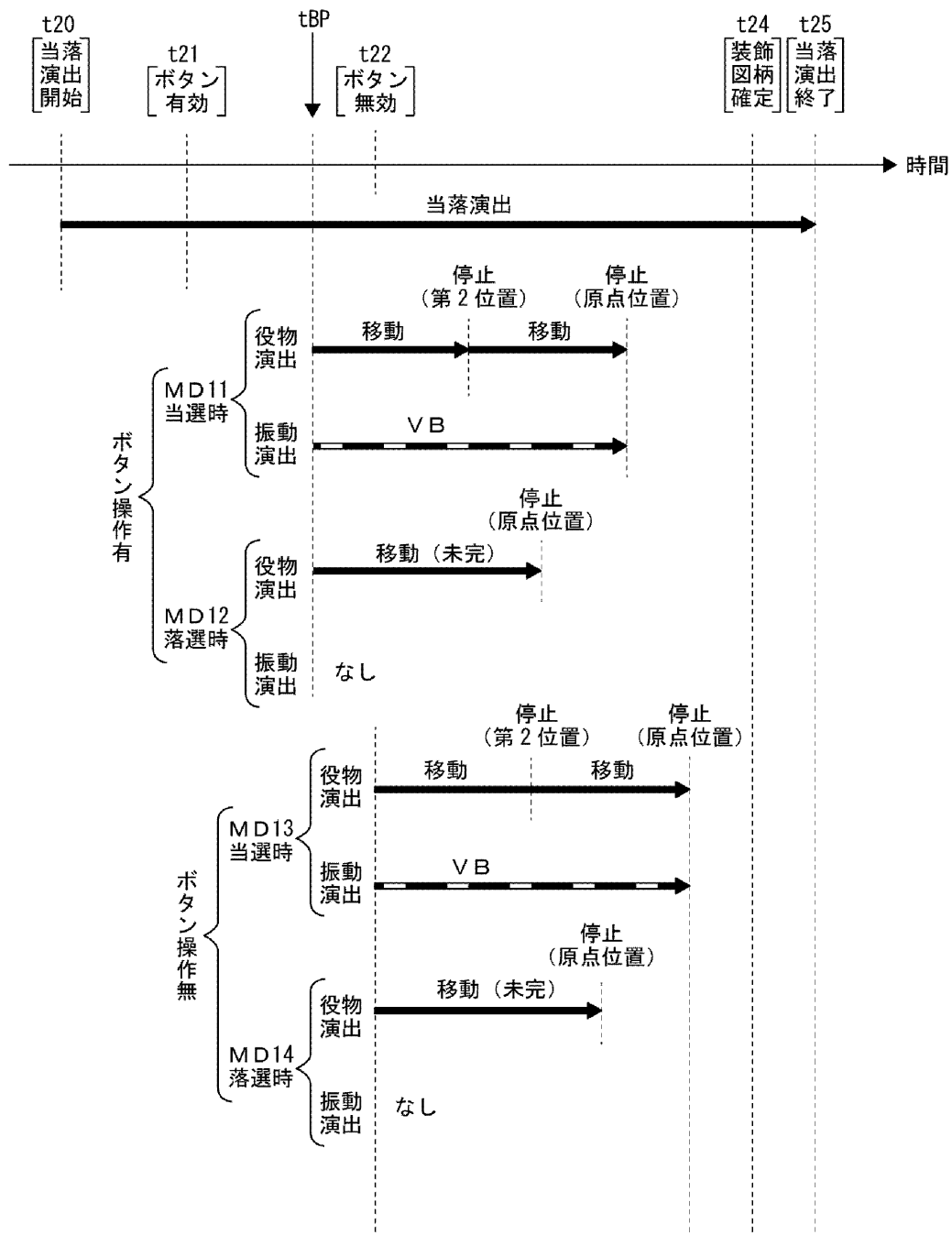
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 3】



【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】図面

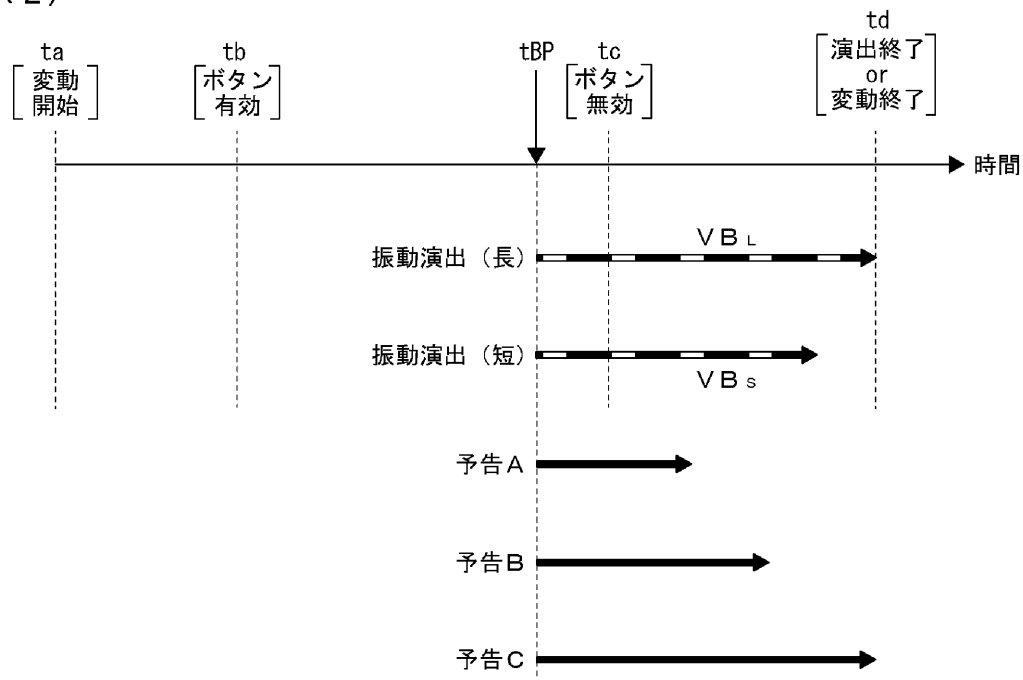
【補正対象項目名】図 1 5

【補正方法】変更

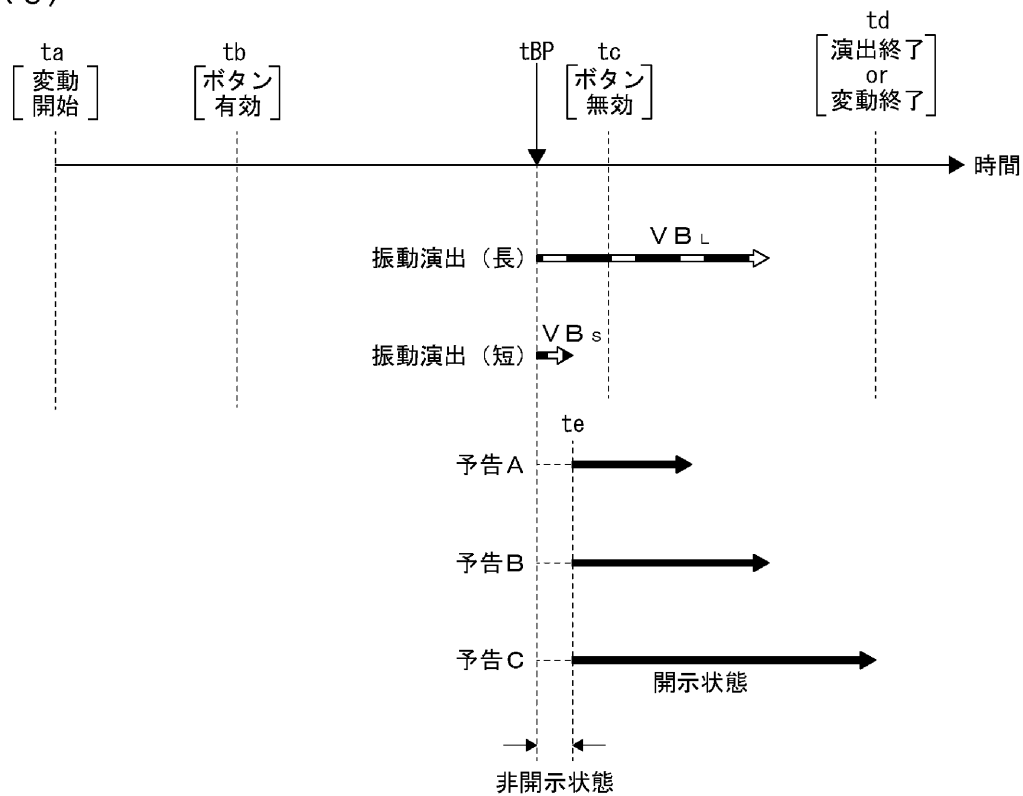
【補正の内容】

【図 1 5】

〈EX 2〉



〈EX 3〉



【手続補正 1 6】

【補正対象書類名】図面

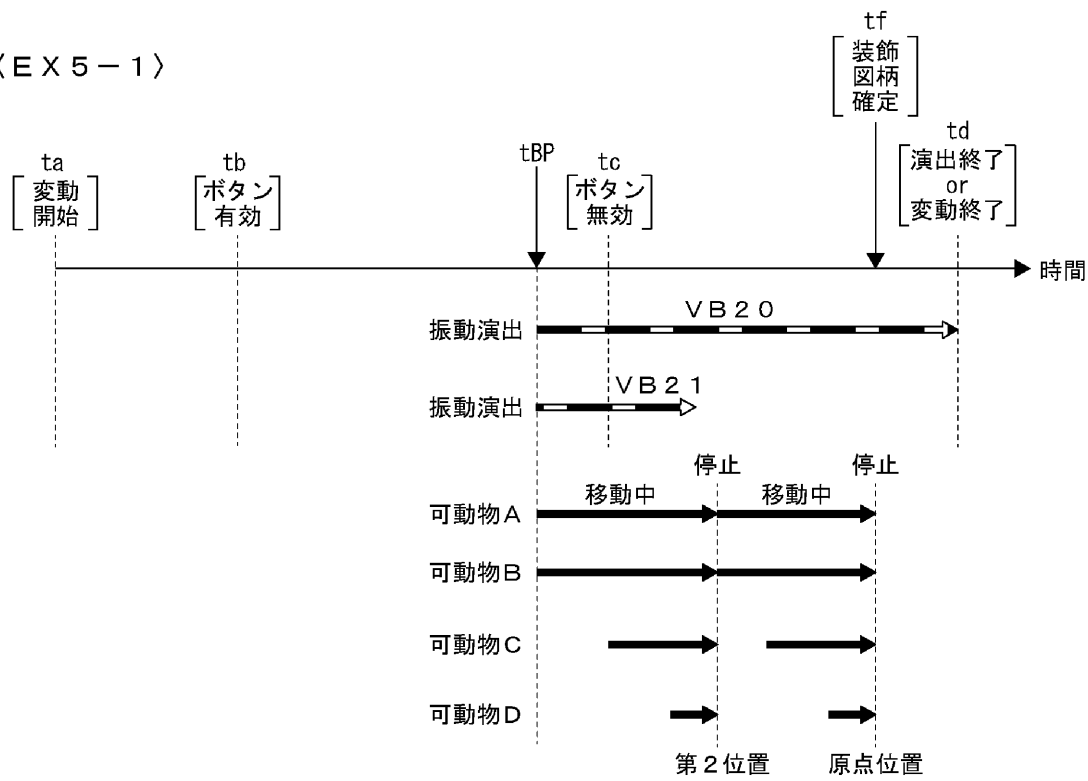
【補正対象項目名】図 1 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 17】

〈EX5-1〉



〈EX5-2〉

